

PROFILE

城戸 かれん（第49回鎌倉市長賞）

1994年、東京生まれ。中学1年で第61回全日本学生音楽コンクール中学の部全国第1位を受賞する。その後、ミケランジェロ・アバド国際ヴァイオリンコンクール(ミラノ)第1位、ジョルジュ・エネスコ国際コンクール(ブカレスト)にて特別賞を受賞。高校在学時には、神戸新聞社主催第14回松方ホール音楽賞を受賞するほか、第79回日本音楽コンクールにおいて第2位に入賞、翌年第80回、第3位。第8回レオポルド・モーツァルト国際ヴァイオリンコンクールにてヤング・アーティスト賞受賞。小澤国際室内楽アカデミー奥志賀をはじめ国内外のセミナーで研鑽を積む中、いしかわミュージックアカデミーIMA音楽賞、カール・フレッシュアカデミー協会賞、ミュージックアカデミーinみやざき優秀賞を受賞する。東京シティ・フィル、バーデン＝バーデン・フィル、日本フィル、都響、宮崎国際音楽祭管弦楽団と共演。これまでに、三戸泰雄氏、原田幸一郎氏、漆原朝子氏に師事。徳永二男氏、川崎雅夫氏、G・ブーレ氏、P・アモイヤル氏のレッスンを受ける。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て東京藝術大学2年在学中、学内にて福島賞受賞。2011～2013年度ヤマハ音楽奨学生、2014年度より第43回江副記念財団奨学生。

大宮 理人（第50回鎌倉市長賞）

平成1年11月1日生まれ。横浜市出身。7歳よりチェロに親しむ。2005年和歌山県立美術館、大阪リーガロイヤル「Rの音楽会」にてDuoリサイタル開催。2006年桐朋学園主催スチューデントコンサートに出演。2008年桐朋学園音楽部門 平成19年度高校卒業演奏会に出演。2008年からサイトウ・キネン・フェスティバル、室内楽講座、青少年の為のオペラ、小澤征爾音楽塾中国公演などに参加。2012年より相模原チェンバーオーケストラに参加。これまでチェロを石橋かほる 毛利伯郎の各氏に、室内楽を毛利伯郎、諸田由里子、東京クアルテットの各氏に師事。東京交響楽団トウツティ奏者。

鈴木 隆太郎（第47回鎌倉市長賞）

1990年、鎌倉生まれ。2008年に栄光学園高等学校を卒業後、パリ国立高等音楽院の第1高等課程Bruno Rigutto氏のクラスに入学。Rigutto氏の退官に伴って2010年度よりHortense Cartier-Bresson氏に師事。2011年度より同第2高等課程（修士相当）に進み、2013年5月、同課程を首席で卒業。同年9月に、同第3高等課程への入学を許され、現在に至る。第3課程においては、学内奨学金を2度受賞、特に11月にはBluthnerピアノから1年間の支援を受けられる事が決まった。2014年2月にはアメリカ、ニューオーリンズにてルイジアナフィルハーモニック管弦楽団とショパンの協奏曲2番を共演した他、アメリカで初めてとなるリサイタルも開いた。同年4月にはロンドンでジョイントコンサートに参加、その様子は英BBC3ラジオにて放送された。3歳よりピアノを始め、これまでに山下亜紀子、日比谷友妃子、横山幸雄、Gabriel Tacchinoの各氏に師事した。2000年全日本学生音楽コンクール小学生の部全国大会第1位。'02年エトリンゲン青少年国際ピアノコンクール第5位（独）、'10年マイエヌ国際ピアノコンクール第2位（一位なし）および聴衆賞受賞（仏）、'13年フラム国際ピアノコンクール第2位（仏）、同年秋フェロール国際ピアノコンクール特別賞（西）。

川村 祥子（第38回鎌倉市長賞）

4歳より日比谷友妃子氏に師事。北鎌倉女子学園高等学校音楽科を経て、東京藝術大学音楽学部器楽科卒業、多美智子氏に師事。その後、ロシアへ渡りチャイコフスキー記念・モスクワ音楽院(大学院・研究科)卒業、エレナ・リヒテル氏に師事。クラシック・ムジカ国際コンクール・フェスティバル(ロシア)にて最高位、及び「バッハ＝ブゾーニ賞」受賞(2010)、同コンクールにて第1位受賞(2011)。ロシア留学では、様々な美術館等にて演奏経験を積み、様々な芸術にも触れ、日本の芦ノ湖音楽祭、重要文化財(横浜市大倉山記念館、横浜市イギリス館、上野旧奏楽堂など)、横浜ゲーテ座、江ノ島、琵琶湖ガリバーホール、ミヤスコフスキーホール(ロシア)、ハンマーウッド・パーク(イギリス)等にてソロリサイタルを行う。現在も続けて、日本やヨーロッパにおいて芸術活動を行っている。

小林 美樹（第43回鎌倉市議会議長賞）

2011年10月、5年に一度ポーランドで行われる第14回ヴェニャフスキ国際ヴァイオリンコンクールにて第2位、2014年第24回出光音楽賞を受賞。2000年全日本学生音楽コンクール小学校の部東京大会第1位を受賞。桐朋女子高等学校音楽科を首席で卒業し、特待生として桐朋学園大学ソリストディプロマコースに進学。2011年、11月にはショスタコーヴィチのヴァイオリン協奏曲第1番（飯守泰次郎指揮東京シティ・フィル）ほかでオクタヴィア・レコードよりCDデビュー。「レコード芸術」誌の推薦盤に選ばれた。2012年は、ポーランドでマキシム・ヴェンゲーロフ指揮、5月には宮本文昭指揮東京シティ・フィル、年末には秋山和慶指揮東京響と共演。翌2月には、2枚目のCDもリリースし紀尾井ホールにてリサイタル、夏には広上淳一指揮読売響三大協奏曲コンサート出演。2014年以降は日本フィル、神奈川フィル、山形響、広島響、中部フィルなどと共演を予定している。これまでに石塚千恵、徳永二男の各氏に師事。2010年から明治安田クオリティオブライフ文化財団、ロームミュージックファンデーションより奨学金を得てウイーン私立音楽大学にてパヴェル ベルニコフ教授に師事している。

石上 朋美（第40回鎌倉市議会議長賞）

東京藝術大学音楽学部声楽科首席卒業、第10回松田トシ賞受賞。同大学大学院修士課程オペラ科修了。第40回日伊声楽コンクール第2位および歌曲賞受賞、イタリアにて第10回オペラ国際コンクールにて第2位およびマンチネリ歌劇場におけるデビュー権獲得など、国内外で多数受賞。同歌劇場にて「フィガロの結婚」伯爵夫人役でデビュー後、「ラ・ボエーム」ミミ役、「修道女アンジェリカ」タイトルロールなどで3年連続出演。'14年夏にも再び「イル・トロヴァトーレ」レオノーラ役にて出演。'08年より文化庁海外派遣研修員、野村文化財団芸術文化奨学生としてイタリアに留学。イタリア各地の劇場シーズンオペラオーディションに合格、「トスカ」「蝶々夫人」などタイトルロールで出演し、特にヨーロッパで蝶々夫人を演じた回数は3年間で20回を超える。'13年には二期会オペラ劇場「マクベス」マクベス夫人役にて二期会デビュー。'14年1月に新国立劇場オペラ公演「蝶々夫人」タイトルロールの初日公演を急遽務め、初登場でありながら大役を見事に演じ話題となる。また7月に高校生のための鑑賞教室公演「蝶々夫人」にも登場し、好評を得ている。二期会会員。国立音楽大学非常勤講師。